

拠点病院集中型から地域連携を重視したHIV診療体制の構築を目標にした研究

研究分担課題 HIV陽性者の地域連携の推進と地域の看護の役割

研究代表者	猪狩 英俊	千葉大学医学部附属病院	感染制御部長	准教授
研究分担者	鈴木 明子	城西国際大学看護学部	教授	
研究協力者	神明 朱美	城西国際大学看護学部	助教	
	丸山 あかね	城西国際大学看護学部	助手	
	種 恵理子	元城西国際大学看護学部	助教	
	松尾 尚美	城西国際大学看護学部	助教	
	小川 ひろ子	城西国際大学看護学部	非常勤実習助手	

研究要旨

拠点病院と施設との地域連携を推進する目的で、4回の意見交換会を開催した。案内を郵送したのべ2941施設中80施設（参加率2.7%）102名が参加した。地域ではHIVの最新情報が届きにくく、HIVは特別ではなく怖くない、死に至る病ではないことやU=Uを初めて知ったという声もあり、HIV啓発活動としての効果はあった。千葉県の最近のHIVの動向、HIV陽性者の現状、地域との連携で感じる困難、当事者からのメッセージ、意見交換は、参加者の参考になり、理解度も高い研修会となった。地域との連携を進めるためには、拠点病院と連携しながら、とくに介護職員の意識を変えることが必要だという意見が多く、研修会の要望も聞かれた。継続的な研修参加で、連携の困難さの理解度が有意に高くなり、何度も参加していただいた参加者も10人（10.6%）いたことから、関心のある参加者を中心にして、地域での受け入れ施設を広げることが期待される。

A. 研究目的

拠点病院と施設との地域連携を推進する目的で意見交換会を行い、効果的な啓発活動の在り方を検討する。

B. 研究方法

意見交換会の開催場所は、患者数が多く今後地域連携が必要になると予想される都心部とした。対象者は、開催周辺市町村の医療・福祉・行政の関係者とした。開催は土曜日の午後として、講演内容は、医師によるHIVの最近の動向（20分）、看護師による患者の現状（20分）、ソーシャルワーカーによる地域との連携で感じる困難（20分）、当事者からのメッセージ（60分）のあと、参加者間で「明日HIV陽性者の受け入れを依頼されたらどうするか？」という視点で意見交換を行った（60分）。講師は、拠点病院と、特定非営利活動法人日本HIV陽性者ネットワーク・ジャンププラスおよび社会福祉法人はばたき福祉事業団や関係者のついで依頼した。全4回とも同じ講師が同じテーマを担当したものもあるが、会場により講師が異なり、詳

細な講演内容は、回によって異なる。

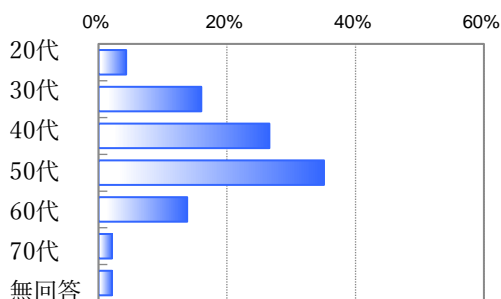
参加者にはアンケートを依頼し、意見交換会参加にあたり関心をもった内容、講演に対する理解度、HIVの認識について検討した。倫理面への配慮として、匿名性の保障、協力しなくても何ら不利益を被らないこと、研究目的以外の使用をしないこと、結果はエイズ関連学会や報告書などで報告することを口頭と紙面で説明した。なお城西国際大学研究倫理審査委員会では、非該当と審査された。講演内容の理解度は、理解できた4、概ね理解できた3、あまり理解できなかった2、ほとんど理解できなかった1の4段階で評価し、研修会の参加経験、当事者の講演聴講経験と講演内容の理解度についてSpearmanの順位相関係数により相関分析を行った。統計学的分析には、IBM SPSS Statistics 26を使用し、有意水準を $p < 0.01$ とした。

C. 研究結果

意見交換会は、2019年9月から2020年9月までに、千葉県内の3カ所で計4回実施した（表1）。

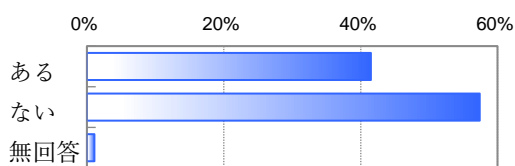
フライヤーを作成して鑑文と共に、開催周辺市町村の訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、保健所、市町村の保健医療担当課と障害支援課、千葉県内エイズ拠点病院9施設など、のべ2941施設に郵送した。そのうち参加施設はのべ80施設、施設参加率は2.7%、のべ参加者数は102人であった。アンケート回答者はのべ94人、回答率は92.2%であった。

意見交換会の参加者の属性は、性別は、女性73人(77.7%)、男性20人(21.3%)、無回答1人(1.1%)であった。年代は、20代4人(4.3%)、30代15人(16.0%)、40代25人(26.6%)、50代33人(35.1%)、60代13人(13.8%)、70代2人(2.1%)、無回答2人(2.1%)であった。

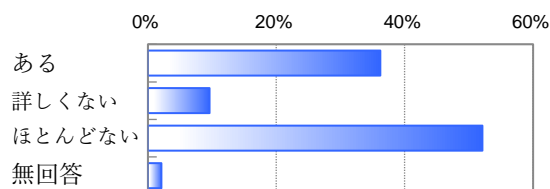


職種は、介護支援専門員が最も多く41人(43.6%)であり、次に看護師28人(29.8%)、保健師5人(5.3%)、教員4人(4.3%)、介護職員・助産師・医師それぞれ3人(3.2%)であった(図1)。

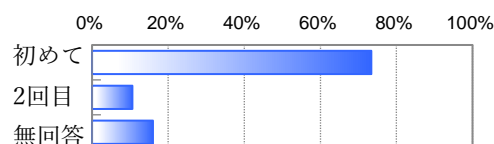
HIVに関する研修会には、参加したことがある39人(41.5%)、参加したことがない54人(57.4%)、無回答1人(1.1%)であった。



HIV陽性者の話を聞いたことがある34人(36.2%)、聞いたことはあるが詳しい話ではない9人(9.6%)、ほとんどない49人(52.1%)、無回答2人(2.1%)であった。



この意見交換会への参加は、はじめて69人(73.4%)、2回以上10人(10.6%)、無回答15人(16.0%)であった。



所属施設のHIV陽性者の受け入れは、既に受け入れている・受け入れたことがある24人(25.5%)、受け入れ可としているが今のところない14人(14.9%)、受け入れていない11人(11.7%)、わからない14人(14.9%)、該当しない28人(29.8%)、無回答3人(3.2%)であった。

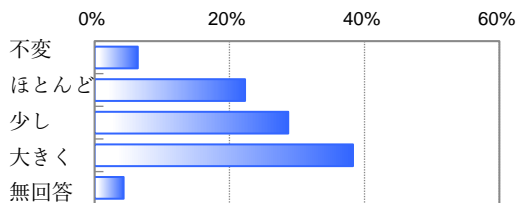
意見交換会に参加した理由は、地域との連携で興味があった47人(50.0%)が最も多く、当事者からの話に興味があった42人(44.7%)、HIVの千葉県内の動向について興味があった36人(38.3%)、いつかHIV陽性者を受け入れるための準備として27人(28.7%)という回答が多かった。

興味に対する意見交換会の参考度合いは、参考になった65人(69.1%)、概ね参考になった21人(22.3%)、あまり参考にならない・ほとんど参考にならない0人(0%)、無回答8人(8.5%)であった。

意見交換会の理解度については、「理解出来た」と「概ね理解出来た」を合わせると430人(91.5%)であった。4回の加重平均は、最近の動向について3.70、HIV陽性者の現状について3.60、地域との連携で感じる困難について3.58、当事者からのメッセージ3.63、意見交換3.62であり、参加者が概ね理解できる内容であった。

意見交換会に参加したことによるHIVに関する認識の変化は、全く変わらない6人(6.4%)、ほとんど変わらない21人(22.3%)、少し変わった27人(28.7%)、大きく変わった36人(38.3%)、無

回答 4 人 (4.3%) となった。



今後の HIV 陽性者の受け入れに関しては、今まで通り受け入れる 29 人 (30.9%)、今まで受け入れていないが、これからは受け入れてもよい 14 人 (14.9%)、私としては受け入れたいが施設が受け入れない 5 人 (5.3%)、施設は受け入れても私は受け入れたくない 0 人 (0%)、今まで通り受け入れない 2 人 (2.1%)、該当しない 37 人 (39.4%)、無回答 7 人 (7.4%) であった。

施設で HIV 陽性者を受け入れるために必要なことは、複数回答で、スタッフが今日のような話を聞けるような研修会が最も多く 67 人 (71.3%) であり、拠点病院と相談できるようなバックアップ体制 52 人 (55.3%)、もっと詳しい HIV 陽性者のケア等の具体的な方法 37 人 (39.4%)、関わっている人たちが集まって定期的に行う情報交換の場 33 人 (35.1%)、感染対策マニュアルの整備 28 人 (29.8%)、施設における感染対策の手袋・ガウンなどの物品の整備 11 人 (11.7%)、感染対策における予算 6 人 (6.4%) の順となった。

今の地域で HIV 陽性者の受け入れが進まない理由として、複数回答で、施設の介護職員の理解が得られない 44 人 (46.8%)、施設管理者 (理事や施設長) の理解が得られない 35 人 (37.2%)、施設のほかの利用者や家族の理解が得られない 32 人 (34.0%)、施設の感染管理担当者の理解が得られない 23 人 (24.5%)、その他 23 人 (24.5%)、無回答 16 人 (17.0%) であった。

統計学的に分析によると、研修会の参加経験有無と当事者の講演聴講経験 ($\rho=0.570$)、研修会の参加有無と地域連携の困難への理解度 ($\rho=0.388$) は有意差があった (表 2)。それぞれの講演間では、最近の動向、陽性者の現状、地域連携の困難、当事者からのメッセージ、意見交換の理解度には、陽性者の現状と当事者のメッセージには相関関係がなかった ($\rho=0.153$) が、それ以外の講演間では有意

差があった (表 3)。

D. 考察

意見交換会のお知らせは、訪問看護ステーションと居宅介護支援事業所に宛てて郵送したため、参加者の職種は、看護師と介護支援専門員が多かった。そのため、参加理由として「連携」を挙げる参加者が多かった。HIV 陽性者を受けた経験のある施設は 24 人、受け入れたことはない・受け入れていないは 25 人とほぼ同数であった。これから HIV 陽性者を受け入れるための準備として参加したと答えた参加者もあり、HIV 陽性者の受け入れ困難さが緩和されていると感じる。

HIV 研修会の参加経験のある人の方が 54 人 (57.4%) と少ないことから、HIV の啓発活動という意味においては、この意見交換会をする意義があったと言える。フライヤーの「HIV 陽性者が地域で生きることが当たり前となってくる今」と書いてあったので準備をしないといけないと思った、という声や、HIV が死に至る病ではなくなったことを知った、U=U を初めて知ったという声も意見交換の中であり、HIV の最新情報は地域には伝わっていないことが明らかとなった。また、HIV は他人事ではなく、同じ時代に生きる自分達にも関わる問題だと自分事に思うことが、HIV 陽性者との関わりを始める第一歩になると考えられた。当事者の話は、ほとんどない・聞いたことがないがあわせて 58 人 (61.7%) であることや、参加の目的に「当事者の話を聴けること」を挙げた人が最も多かったことから、当事者の講演は研修会に含むに値する重要な部分であった。

この 4 回の意見交換会は、参加者の興味に対して参考になったのが 86 人 (91.4%) であったことから、HIV 陽性者の最近の動向、HIV 陽性者の現状、地域連携における困難、当事者からのメッセージという内容は、十分であったと考えられる。講演の理解度も、ほとんどの参加者が「理解出来た」と答える内容であり、参加者に合った内容だと考えられた。

研修会の参加経験と地域連携の困難の理解度と相関したことから、何度も研修会に参加すること

で、HIV 陽性者の抱える困難の理解度が高くなる
ことが明らかになり、研修会を何度も繰り返す意味
はあると考えられた。陽性者の現状の理解度と当
事者からのメッセージの理解度が関連しなかった
ことから、それぞれの話は一事例として受け止め
て理解していることが示唆された。ケアに直結す
る現状として、治療や最新の動向、他の施設での受
け入れの状況や福祉サービスに関しては、受け入
れを進める上で重要な情報であり、拠点病院と相
談できる関係があることも、受け入れるための要
件になると考えられる。一度意見交換会に参加し
たからといって、飛躍的に受け入れが進むわけ
はないが、この機会をきっかけにして HIV に関心
をもち、施設の介護職員への研修なども進めるこ
とで、受け入れの障壁はさらに低くすることが可
能になるだろう。

4 回の意見交換会開催にあたり、のべ 2941 施設
に案内し、そのうち 80 施設 (2.7%) から参加者
があった。4 回中 3 回は、悪天候や COVID-19 の影
響で参加者が少なくなったことを考慮すると、特
段の影響のなかった第 2 回目の開催における「参
加率 4.2%」が HIV に対する関心を持つ施設のベ
ースラインであり、状況によって 1~2%に低下す
ると言えるだろう。また、何度も参加していただ
いた参加者がアンケート回答者 94 人のうち 10 人
(10.6%) いることから、HIV の地域連携に関心
のある人が一定数いることもわかった。今後は、意見
交換会を継続しながら関心のある人を集め、リピ
ーターを中心にして具体的に地域連携を進めてい
くことで、地域での受け入れを広げていく可能性
についてさらに検討していきたい。

E. 結論

拠点病院と施設との地域連携を推進する目的で、
HIV 陽性者の最近の動向、HIV 陽性者の現状、地域
連携における困難、当事者からのメッセージ、とい
った講演と意見交換を行ったところ、参加者の参
考になり理解度も高い研修会となった。また、HIV
の地域連携に関して興味のある施設は、地域の 1~
4%の施設であった。

F. 健康危険情報

本研究は介入研究ではなく特記すべき健康危険
情報はない。

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

鈴木明子、葛田衣重、種恵理子、他 地域で HIV
陽性者を支えるために実施した意見交換会の成
果 第 33 回日本エイズ学会 熊本 2019

神明朱美、鈴木明子、葛田衣重、他 地域で HIV
陽性者を支えるために実施した意見交換会の成
果 第 34 回日本エイズ学会 千葉 2020

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし

表1 意見交換会概要

	開催地	開催日	参加施設			アンケート			備考
			配布施設数	参加施設数	参加率(%)	参加者(人)	回答者(人)	回答率(%)	
1	市川	2019年2月9日	333	16	4.8	18	15	83.3	降雪
2	千葉	2019年9月7日	853	36	4.2	49	48	98.0	
3	柏	2020年2月22日	744	15	2.0	20	18	90.0	COVID-19 流行
4	千葉	2020年9月5日	1,011	13	1.3	15	13	86.7	COVID-19 流行
計			2,941	80	2.7	102	94	92.2	

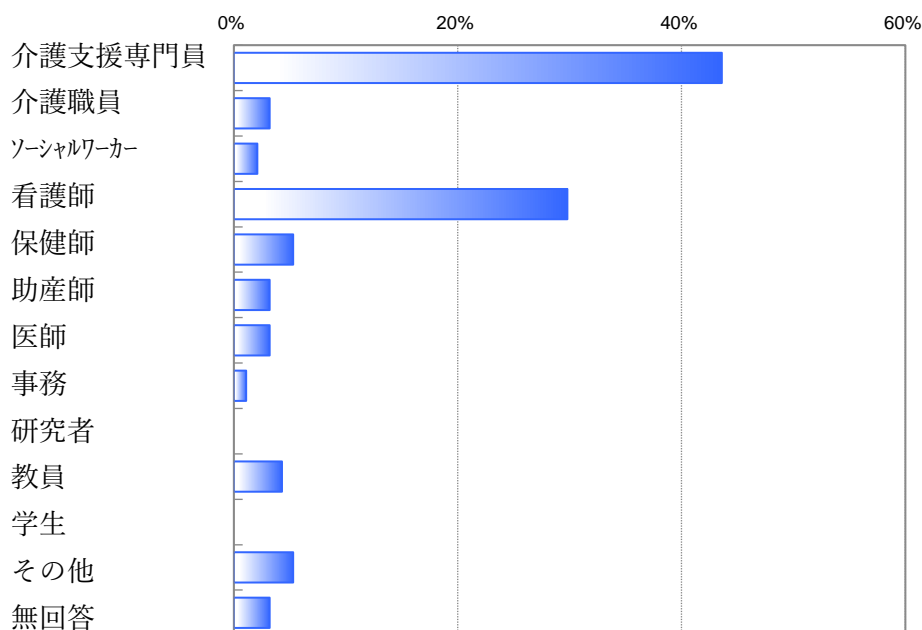


図1 参加者の職種

表2 研修会や当事者の講演聴講の有無と各講演の理解度との相関

		研修会 参加経験	当事者の講 演聴講経験	最近の動向	陽性者現状	地域連携の 困難	当事者のメ ッセージ	意見交換
研修会参加経 験	相関係数	1.000	.570**	0.236	0.225	.388**	-0.014	0.009
	有意確率		0.000	0.114	0.132	0.009	0.926	0.957
	度数	47	47	46	46	44	46	36
当事者の講演 聴講経験	相関係数	.570**	1.000	0.223	0.263	0.255	-0.078	-0.070
	有意確率	0.000		0.136	0.077	0.094	0.605	0.685
	度数	47	47	46	46	44	46	36

** : p<0.01

表3 各講演の理解度の相関

		最近の動向	陽性者現状	地域連携の 困難	当事者のメ ッセージ	意見交換
最近の動向	相関係数	1.000	.638**	.409**	.384**	.592**
	有意確率		0.000	0.006	0.008	0.000
	度数	47	47	44	46	36
陽性者の現状	相関係数	.638**	1.000	.586**	0.153	.766**
	有意確率	0.000		0.000	0.311	0.000
	度数	47	47	44	46	36
地域連携の困難	相関係数	.409**	.586**	1.000	.390**	.548**
	有意確率	0.006	0.000		0.009	0.001
	度数	44	44	45	44	36
当事者のメッセ ージ	相関係数	.384**	0.153	.390**	1.000	.426**
	有意確率	0.008	0.311	0.009		0.008
	度数	46	46	44	47	37
意見交換	相関係数	.592**	.766**	.548**	.426**	1.000
	有意確率	0.000	0.000	0.001	0.008	
	度数	36	36	36	37	37

** : p<0.01